

# 会長再就任のごあいさつ

公益社団法人日本語教育学会  
会長 伊東 祐郎



2015年5月30日に開催された理事会において再び会長に選出されました。会長の続投に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

日本語教育学会は、2013年4月1日に公益社団法人に移行しました。その直後の会長に就任してからの2年間、公益社団法人としての学会の社会的役割、事業活動等の指針となる理念体系の策定に際しましては、多大なるご理解とご協力、またご助言等を賜り、深く感謝申し上げます。

おかげさまで、本学会の理事を中心に公益社団法人としての使命、学会像、全体目標を策定し公開に至りました。中長期事業計画の概要を掲げ、事業全般の見直しを行うこともできました。また、財政基盤の安定強化策、そして、事業活動については社会貢献の視点から包括的な検討も行ってまいりました。第2期目を迎えた今、これからの2年間は、まず2015年度内に、各事業の中長期事業計画を完成させ、2016年度より、それらのアクションプランを、着手できる所から着実に実行に移していきたいと思っております。

まず、組織とネットワークを強化するために、学会の機能を自律的、戦略的に果たしていけるような体制を整えていこうと考えております。会員、非会員を問わず、すべての日本語教育関係者が斬新なアイデアを出し合い、常に世の中の動きを見据えた思考と行動が取れるようになればと願っております。

第2に、本学会は、学術・実践研究を行う団体ですから、今後も、学術研究の成果が日本語教育のさらなる発展に寄与できるだけでなく、学会員各自の成長実現の場となるような環境作りをめざしたいと考えております。そのために、魅力ある組織でなければなりません。会員間の議論をさらに活性化させ方向性を共有していきたいと考えております。

そして、研究成果をベースとした社会貢献、社会的なニーズや期待に応えられるような学会の体制作りも欠かせません。学会は様々な背景や知識、経験を有した会員から成り立っています。多様性を活力として、また学術研究を通して生まれた知財や人財を活かして、社会貢献活動や国際貢献事業に寄与できる組織を作り上げていきたいと考えております。

私はこれからの2年間で、新生日本語教育学会に課された社会的使命や役割を認識し、学会内外の情勢変化をしっかりと見極め、会員各位をはじめ、関係省庁・関連団体の皆様とも連携しながら、さらなる発展に向けて全力で取り組んで参りたいと存じます。皆様の一層のご協力を切にお願い申し上げます。